

令和 6 年度 第 10 回学校運営協議会会議録

学校名	杉森中学校
記録者	狩野 俊

開催日時	令和 7 年 2 月 4 日(火) 午後 4 時～
開催場所	杉森中学校 北棟 2 階 会議室
出席者(委員)	出席：岡田会長、佐々木校長、村上会長職務代行、小川委員、佐久間委員、西野委員、福島委員、國藤委員、狩野委員
出席者(学校)	濱田副校長 教務主任
傍聴者人数	なし

会議内容(次第順)
会長挨拶 校長挨拶 議事録・配付資料確認 討議事項：学校経営計画、教育課程の編成方針について 決議事項：令和 7 年度 特別支援教室教育課程
主な意見
会長挨拶 校長挨拶 私立一般入試、都立一般入試が始まる。生徒には体調管理に気を付けるように指導している。2年生の菅平移動教室は、時間を守れて行動でき素晴らしかった。1年生の鎌倉校外学習は、20 班のうち 6 班が遅れて帰ってきた。お土産購入のレジの待ち時間や、最終チェック場所から電車に乗るまでの時間の計算ができていなかったようだ。今回の反省を生かして 5 分前行動などできるといい。 学校経営計画と教育課程の編成方針については、本日、みなさまのご意見をいただき、最終的に 3 月に提出できればと思っています。それではよろしくお願いいたします。 討議事項 教育調査の結果 副校長より 教育調査、生徒からは 278 名の回答があった。生徒総数が 303 名なので 95%の回答率。QR コードを読み込む方法で実施。マイナス面もあるが、学力に関してはプラスが高い傾向にあり、東京都の結果と比べても遜色はないかと。ただし、英語の授業でマイナスが高い。学年が上につれマイナスが上っていくのに学校とし

ては問題意識を持ち、英語科では英語のコミュ力上げる試みを行っている。音読することで英語で話すのは照れるという意識を低くさせ、同時に単語力上げるための小テストを行い、かつての「英語の杉森」を再来させるよう努力している。

保護者からの回答は104名。家庭数が280名なので、回答率は昨年同様に低い結果となった。学校からの発信を多くし、回答率のアップを狙っていく。ただ、学校評価アンケートでは回答率が90%以上で、令和5年度と比較しても本年の回答率が上回っている。表のピンクの部分は前年比で5%上っている項目。保護者からの回答で「人間関係や心の問題で悩んだ時、学校は支援してくれているか」という問いに対し33%しか肯定的な回答が寄せられていないということに学校としては気にしている。

<質問 意見>

- ・紙に比べてWeb調査の回答はどうしても低い傾向にある。
- ・英語のマイナス回答、学年が上るにつれて低くなっていくのは問題。テスト結果が低いのか、それともその前の段階、授業などに問題があるのか。
- ・英語に関しては、落ちている。自分が学生の頃はネイティブと話すのが楽しい、などあったのだが。
- ・今の1年生は小学校から英語の授業を受けている。聞き取りが受験に入っているのにどうなか。
- ・小学校5、6年から英語をやっているの、自分たちはもっとやれる、という意識の裏返しの可能性もある。

副校長 テストの結果で、この回答の低さ、というのはあると思う。スピーキングテスト、ALD会話も取り入れてある。つたなくても、英語で意見を言い合う、世界と話そう、という意識を持たせるようにしている。以前も杉森の勤務経験のある先生からも「英語の杉森」と言われていたのに悲しい、と言われた。学校総ぐるみで盛り上げていくよう努力する。

<質問 意見>

- ・3年生に向かうにつれ、色々な項目で肯定的な回答が増えている。これは指導された結果が数字に現れているということだと思う。
- ・月に一度しか新聞は読まないというこの数値は驚き。
- ・テレビのニュースもどこまで見ているのか疑問。全てスマホで見ているのだろう。調査についての回答といのは、感覚的に答えている、という側面があるにしても興味深い。国も都も区も調査しているということで、結果を有効に生かしてほしい。
- ・生成AIなど多様なテクノロジーが出てきて、それを取り込み未来に進む、という生徒と、一方まあそこそこ生きていく、というような二極化はあるのだろう。
- ・私立学校で、特進クラスから一般クラスに落ちた層と、逆に上がった層、落ちた方は最初は頑張ろうとするが、やりきれなく呑み込まれる、上った方はクラスに影響を及ぼすくらいの頑張りや盛り上がりをもたらす。働き蟻の理屈と同じ。

討議事項 令和7年度 学校経営計画について：校長 教育課程の編成方針について：教務主任より

生徒が目的意識、相手意識をもった「学び合い」の活動を充実させ、主体的に学びに向かう力を育成する。小中一貫教育を適切に推進、中1ギャップの解消に務め、不登校の事前防止を図る。教育相談コーディネーターを核として、スクールカウンセラー・スクールカウンセラー補助員、いじめ不登校の事前防止を図る。言語活動を充実させ、表現力・創造性を育成する。英語の授業やイングリッシュサマースクール等を通して、英語コミュニケーションの育成を図る。また、学校支援本部と連携した補充学習教室の充実。多様な他者と協働、地域、保護者と連携、体験機会。総合的な学習の時間では、社会と共に生きるを・・・ボランティア活動等の社会貢献活動を実践する。その他の教育活動では、全教職員が「杉並区いじめ防止対策推進基本方針及びいじめ対応マニュアル」に基づいて作成した「杉並区立いじ

め防止基本方針」を理解し、校内で年に３回の教職員へのいじめ関連研修を実施し、全教職員が生徒の人権に配慮した指導を行えるようにする。生徒に向けては、年３回のいじめに関する授業や弁護士による１年生に向けた授業を行う。不登校の生徒には指導・援助を行う。また、そのことを生徒・保護者に十分周知する。学校支援本部と連携して教室以外の居場所（杉森ルーム）を設置する。小中一貫の取組として、学区小学校と「小中合同あいさつ運動」を実践する。携帯電話やインターネットを利用した犯行やネットいじめについて、関係機関の協力を得て情報モラル教育を実施し、トラブルの防止に努める。また、小中の連携で協議した杉森中 SNS ルールを実践するよう指導する。キャリア教育では、地域のボランティア活動に積極的に参加させる。特別支援教育では、近隣小学校の特別支援学級や区内の特別支援学校との交流及び協働学習を進める。

＜質問 意見＞

- ・中身はとても充実している。なんでもかんでも、よりは、心を育てる、という言い方、姿勢が大事では。より具体的にする必要はあるのでは。
- ・「学び合い」とは具体的にはどういうことか。
- ・大きな目標に向けて向かっていくという感じは良い。英語、いじめ、自分とは違うこと人、社会に役立てられるという自信。義務教育最後が中学生生活なので、ここで自己肯定感を得てもらいたい。
- ・地域、多様性が書かれているのは良いなど。他者理解、他者の尊重などは、先程の調査の回答にもあるような自己肯定感の低さを超える力を育む。自己肯定感があるからこそ、他者を尊重できると思う。
- ・教員が出す声が大きくなり、杉森中が明るくなっている、いい学校になっている、という印象を持っている。この計画を先生方が、教育力でどう具体化していくのが大事。
- ・考え方の違う他人と自分の意見を交換し合うことで、自分の考えを固めていくことが出来る。ICT 教育も結構だが、答えは全てタブレットの中にある、というのではなく、タブレットにない意見を出させる、という両輪で進めていくべき。

次回の会議日程

日時	令和 7 年 3 月 8 日 (土) AM11 時から
会場	杉森中学校北館 2 階会議室